

# “こどものミカタ”養成講座 企画書

2021年6月

“こどものミカタ”養成講座 実行委員会

## 1. タイトルおよび講師

“こどものミカタ”養成講座

- 第1部(前・後編) テーマ「見立て」 講義とワーク 講師：大六一志氏  
第2部(前・後編) テーマ「手立て」 講義とワーク 講師：菊池春樹氏  
第3部 テーマ「役立てる」 対話のワーク ファシリテーター：徳田太郎氏

### <講師紹介>

#### ○大六一志氏（“こどものミカタ”養成講座 実行委員会 委員長）

【だいろく・ひとし】 博士(心理学) 公認心理師 臨床心理士 臨床発達心理士 特別支援教育士SV  
日本版ウェクスラー式知能検査(WISC-IV、WAIS-IV、WPPSI-III)刊行委員 日本臨床発達心理士会茨城支部 支部長  
年間120超のWISCおよび特別支援教育に関する研修講師のほか、2016年に教員退職後も筑波大学や放送大学で教鞭をとる。  
茨城県域、東京都域を中心に、教育相談、巡回相談、特別支援教育アドバイザー、顧問等の実績多数

#### ○菊池春樹氏（東京成徳大学 准教授 精神保健福祉士 公認心理師）

【きくち・はるき】 博士(ヒューマン・ケア科学) 精神保健福祉士 東京成徳大学 応用心理学部 臨床心理学科 准教授  
柏市保健衛生審議会母子保健専門分科会(委員) 日本子ども虐待防止学会(学術集会支援委員会委員長)  
日本社会精神医学会 日本カウンセリング学会 関東子ども精神保健学会 日本児童青年精神医学会  
学生時代から、心理・教育・医学・福祉と多方面で臨床と実践重視のフィールドワークを行う。長年にわたり、子どもの療育、  
ペアレント・トレーニング、親子トレーニング等に携わり、2013年より現職

#### ○徳田太郎氏（日本ファシリテーション協会 フェロー ユニベルシタスつくば 代表幹事）

【とくだ・たろう】 法政大学大学院政治学研究科博士後期課程単位取得退学、修士(公共政策学)。  
2003年にファシリテーターとして独立、地域づくりや市民活動、医療や福祉などの領域を中心に活動。NPO法人日本ファシリテーション協会では、事務局長、会長、災害復興支援室長を経て現在はフェロー。その他、Be-Nature School ファシリテーション講座講師、法政大学・法政大学大学院兼任講師など。主著に『ソーシャル・ファシリテーション』(鈴木まり子との共著、北樹出版、2021年)

## 2. 講座の目的

特別支援教育支援員や、児童クラブ・学童保育・児童館、放課後等デイサービスなど、学校、また学校外で学齢期の子どもの支援に携わる職種の方々の資質の向上を期し、(障害等の)専門知識にさきがけて身につけるべき基礎的な視点と、それを現場に活用できる考え方を学ぶ機会を提供します。

また、参加者同士の交流を促し、思いを共有できる相手と出会うことで、これらの職種の方が孤立せず、仕事に希望が持てる、地域のピア・グループやネットワークの形成をめざします。

## 3. 企画主旨

### 【プログラム開発の背景】

文部科学省の定義(※)では、「特別支援教育支援員」(以下、支援員)は、特別な配慮を要する児童生徒の支援を目的とし、障害に関する一定の知識やスキルを要する職種であるといえます。

(※)平成19年6月文科省「特別支援教育支援員」を活用するために [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/tokubetu/material/002.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/002.pdf)

しかしながら、この職種は実態として「経験不問」で募集・採用されている例が大半です。“特別な支援”について未経験者に門戸を広げるのは悪いことではありません。ですが、現場へ出る前も出た後も職務に関する研修の機会は少なく、いざ現場へ出てから児童生徒への対応に苦慮したり、雑用など本来の目的と異なる仕事を与えられたりなど、支援員の意義が果たされていないケースが多くあります。

そんな中で、現状に失望して離職していく人や、自己肯定感が下がったまま子どもと接し続けている人もいます。このことは、支援員個人の問題にとどまらず、本来、支援員の配置によって利益を享受する主体であるはずの子ども(児童生徒)へも、良い影響を与えているとはいえません。

また、人材確保というニーズを優先して未経験者を現場に配している実態は、近年急増している放課後等デイサービス、また、保護者や地域の大人が就くことの多い児童クラブ・学童保育・児童館といった職場で働く方々にも共通していると言えます。

### 【プログラムの理念】

“こどものミカタ”養成講座は、このような職種の方々が、現場において、自分の力で、適切な判断や子どもへの対応ができる力を育てるプログラムです。

“障害”に関係なく、どんな子どもと向き合う時にも大切な、

①一人ひとりの子どもを「見る」「見立てる」力

②「見立て」を確かな「手立て」へつなげ、個々に異なるニーズに見合う「手立て」のひきだしを駆使し、実践に活かせる力

そして、

③教員や保護者といった異なる立場の人とのチームで子どもの支援を考えていくときに助けとなる「連携」の力

この3つを土台に持つ人材を育成し、その力が職場や地域へフィードバックされることで、広く社会全体の「子どもの育つ環境」の質が向上していくことをめざしています。

同時に、立場や状況をわかりあえる受講者同士の横のつながりを通じて、同職種間はもちろん、職種を横断した地域のネットワークが育まれることに期待しています。互いに研鑽しあい、互いの経験知が集積することにより、これらの仕事が、それぞれの立ち位置において的確に活躍できる職種として見直され、確立されていくことを願っています。

4. 主催 “こどものミカタ”養成講座 実行委員会

5. 後援 茨城県教育委員会 守谷市教育委員会 牛久市教育委員会 つくば市教育委員会  
土浦市教育委員会 取手市教育委員会 つくばみらい市教育委員会

6. 日時 2021年 ①9月4日 ②9月18日 ③10月2日 ④10月16日 ⑤10月30日（全て土曜）  
開場 18:50 講座 ①~④19:00~20:30 ⑤19:00~21:00

※①~④は終了後21:00までフリー交流タイムとして会場を提供

7. 場所 オンライン（ウェブ会議ツール『Zoom』を利用）

8. 対象 特別支援教育支援員、および、児童クラブ・学童保育・児童館、放課後等デイサービスなど、  
学校その他で学齢の子どもの支援に現在携わっている方（※教員は除きます）

9. 参加費 7,500円 ※ゆうちょ銀行（振替／振込）への前払いのみ

10. 定員 40名程度

11. 参加申込み方法

【公開練習セッション】

オンライン受講前に、習熟の一助となる“おためし講座”を開催。参加無料、申込み必要。

※本講座への参加は必須ではありません。

申込みウェブサイト <http://bit.ly/S4-PRE>

【本講座】

令和3年7月19日より、当会公式ウェブサイトにて申込受付 ※定員になり次第メチ

申込みウェブサイト <http://bit.ly/MIKATA-S4>

【お問い合わせ先】

“こどものミカタ”養成講座実行委員会 事務局

Email [kodomo-no-mikata@kodomo-no-mikata.org](mailto:kodomo-no-mikata@kodomo-no-mikata.org)

電話 070-4165-0941（平日10~19時）

以上